

草津白根山（白根山（湯釜付近））の火山活動解説資料

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

<噴火警戒レベル2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引下げ>

白根山（湯釜付近）では、地震活動や地殻変動などに低下傾向が認められ、火山活動が静穏時の状態に戻る傾向にあると考えられます。

以上のことから、湯釜火口から500mを超えて概ね1kmの範囲に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなったと判断し、本日（23日）11時00分に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引き下げました。

防災上の警戒事項等：

湯釜火口から概ね500mの範囲では、ごく小規模な火山灰等の噴出の可能性がありますので、地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また、湯釜火口周辺では火山ガスの噴出がみられ、その周辺の窪地や谷地形などでは高濃度の火山ガスが滞留することがありますので注意してください。

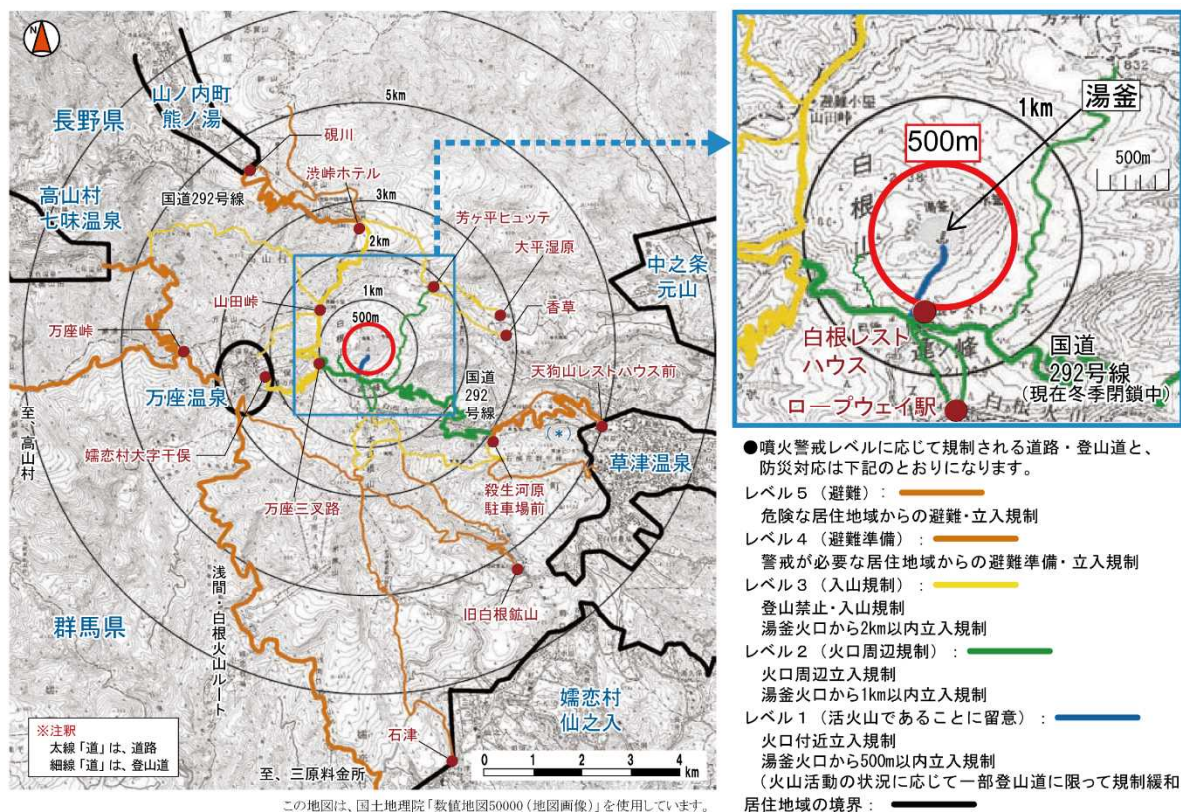


図1 草津白根山（白根山（湯釜付近）） 噴火警戒レベル1に対応した規制範囲

- 火山活動解説資料のページ https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php
- 資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>
- 国土地理院、関東地方整備局、東京工業大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。また、資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』『数値地図50000（地図画像）』を使用しています。

○活動概況と評価

白根山（湯釜付近）では、湯釜付近を震源とする火山性地震は引き続き発生しているものの、地震活動は1月下旬以降低調な状態で推移しています（図3①）。火山性微動も12月以降観測されていません（図3②）。また、傾斜計による観測では、湯釜浅部の膨張によると考えられる明瞭な変化は認められず、2月下旬以降は概ね停滞しています（図3③）。

以上のことから、火山活動が静穏時の状態に戻る傾向にあると考えられます。

ただし、2018年4月以前と比較すると、火山性地震の発生頻度は高い状態にあり（図3①）、湯釜付近浅部の熱水活動は引き続きやや高まっていると考えられます。

また、2014～2015年に地震活動が活発化し（図4①）、火山性微動（図4②）や湯釜浅部の膨張によると考えられる傾斜変動（図4③）が観測されました。火山活動の活発化を繰り返していることから、草津白根山の火山活動は中長期的に活発な状態にあり、火山活動が急変する可能性もあります。

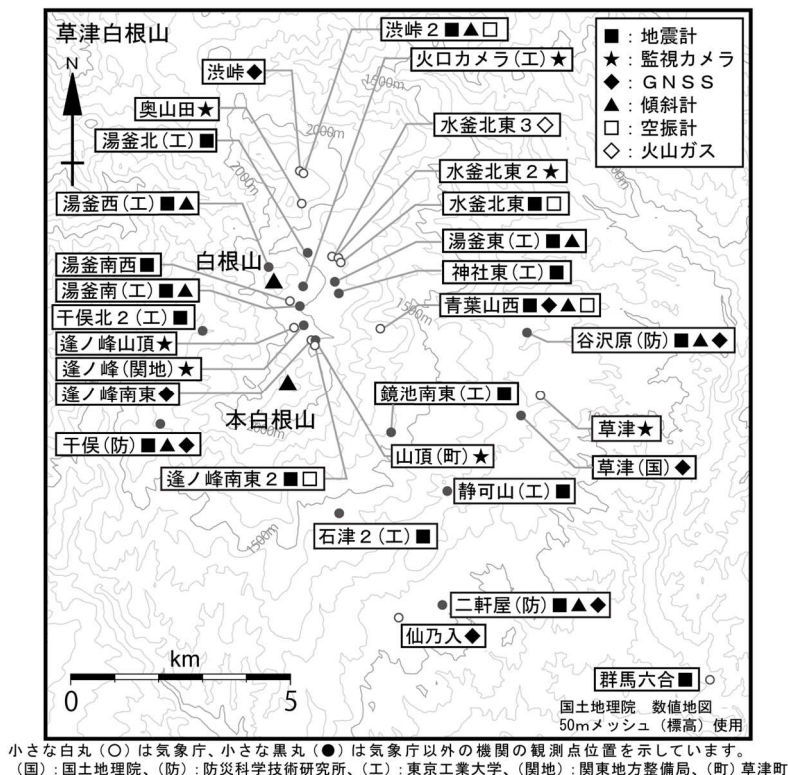
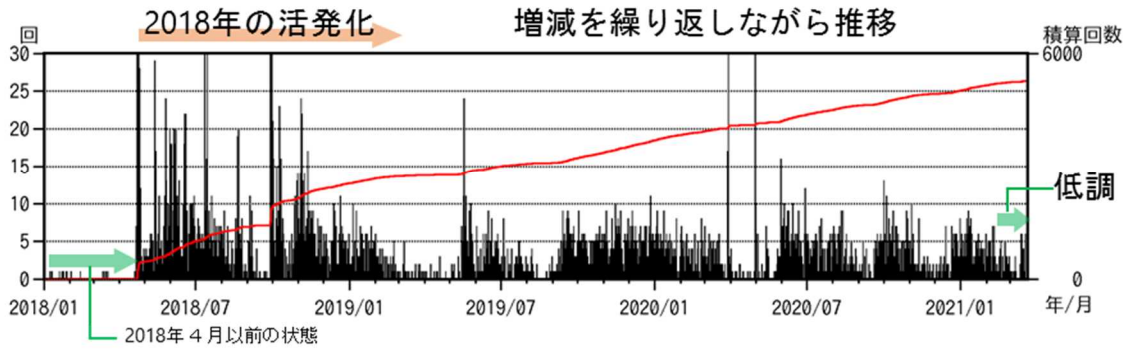
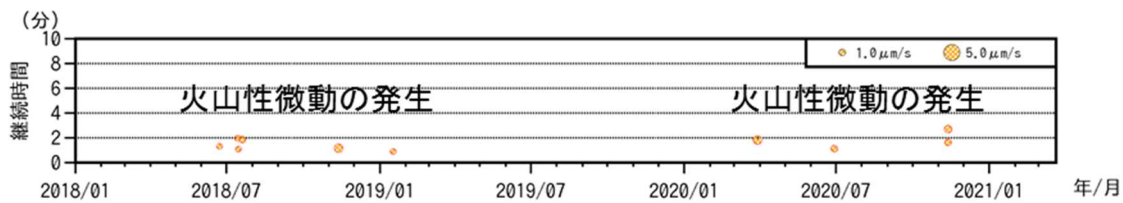


図2 草津白根山（白根山（湯釜付近）） 観測点配置図

①火山性地震の日別回数



②火山性微動の発生状況



③地殻変動（湯釜東（東工大））

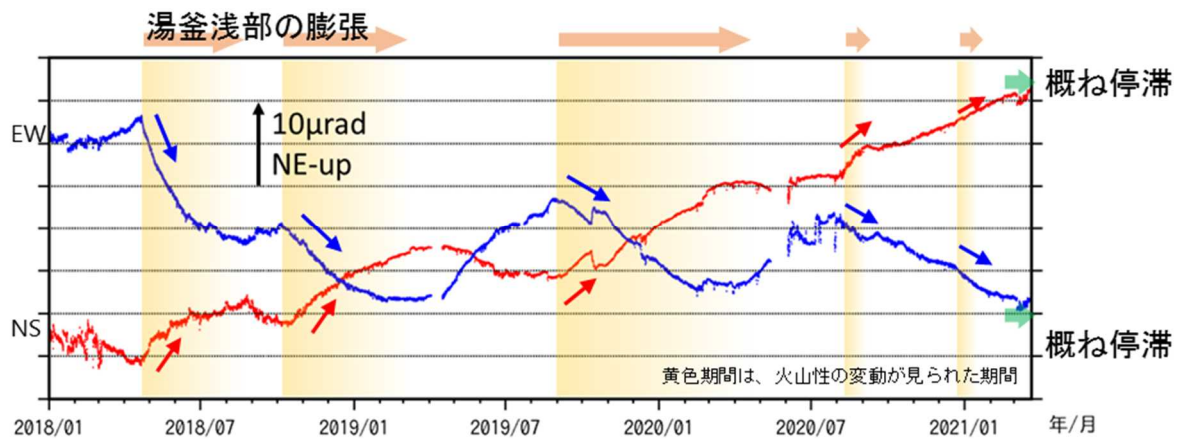
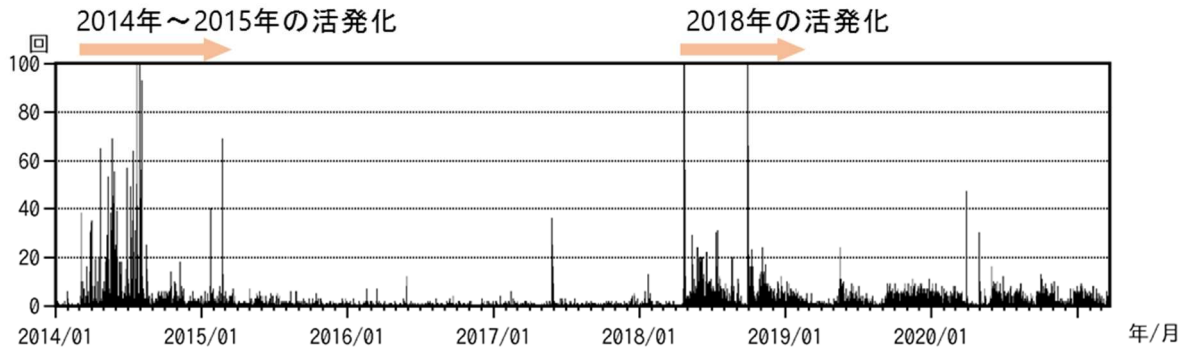


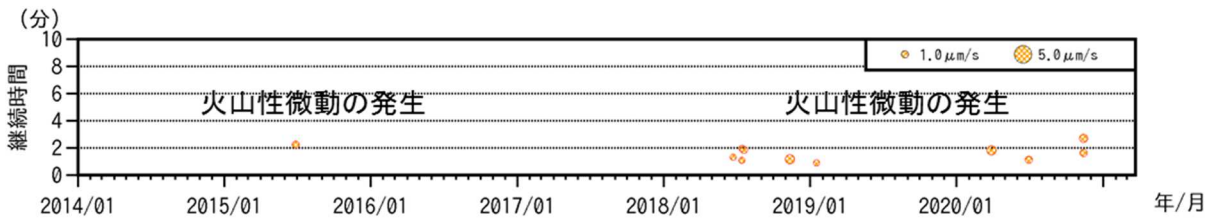
図3 草津白根山（白根山（湯釜付近））最近の活動経過図（2018年1月1日～2021年3月21日）

- ・火山性地震は引き続き発生しているものの、地震活動は1月下旬以降低調な状態で推移しています。ただし、2018年4月以前と比較すると、火山性地震の発生頻度は高い状態にあります。
- ・火山性微動は、12月以降観測されていません。
- ・東京工業大学が湯釜周辺に設置している傾斜計では、湯釜浅部の膨張によると考えられる明瞭な変化は認められず、2月下旬以降は概ね停滞しています。

①火山性地震の日別回数



②火山性微動の発生状況



③地殻変動（湯釜東（東工大））

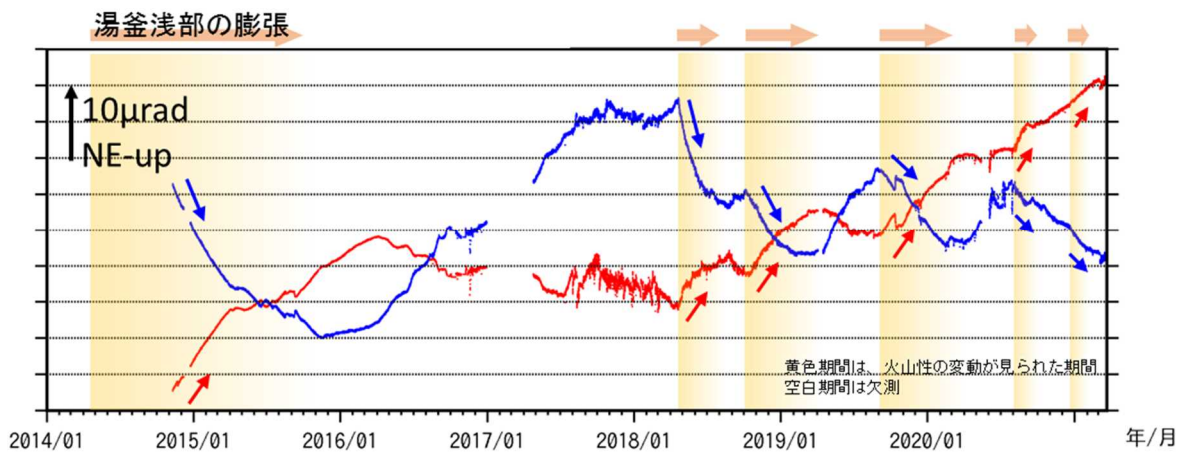


図4 草津白根山（白根山（湯釜付近））長期活動経過図（2014年1月1日～2021年3月21日）

・2014～2015年に地震活動が活発化し、火山性微動や湯釜浅部の膨張によると考えられる傾斜変動が観測されました。